



# 名古屋城 子ども博士になろう



学習シート「名古屋城築城」編

## 名古屋城はなぜつくられたのでしょうか

名古屋城は今から  
約410年前に  
つくられました



名古屋城は、何年くらい前につくられたのか、だれが何のためにつくったのか、どんな場所にどんな人たちがつ

くったのか、最初の殿様はだれだったのかなど、いろいろな疑問がわいてきません。

まず、名古屋城の建設の始まりから現在までの、簡単な歴史を年表で見てみましょう。名古屋城の歴史は、今から約410年前に始まりました。

時代	年	できごと
江戸	1610 (慶長15)	徳川家康の命令で名古屋城の建設が始まりました。
	1612 (慶長17)	天守が完成しました。
	1615 (慶長20)	本丸御殿が完成しました。
	1617 (元和3)	二之丸御殿が完成しました。
	1634 (寛永11)	3代将軍徳川家光が上洛殿に宿泊しました。
	1752 (宝暦2)	天守や天守台石垣の大修理を行いました。(宝暦5年に完成)
明治	1872 (明治5)	天守と本丸御殿が陸軍省の管理になりました。
	1893 (明治26)	本丸などの管理が陸軍省から宮内省に移りました。
昭和	1930 (昭和5)	本丸などの管理が宮内省から名古屋市に移されました。 名古屋城が城の国宝1号に指定されました。
	1945 (昭和20)	名古屋大空襲で天守や本丸御殿などが焼失しました。
	1959 (昭和34)	天守閣が再建されました。
平成	2009 (平成21)	本丸御殿の復元工事が始まりました。(2013年公開開始)
	2018 (平成30)	本丸御殿の復元工事が完了し、全面公開が始まりました。



なごやじょうのうびへいや  
名古屋城は濃尾平野の  
まもりをかたしる  
守りを固める城でした

ねんけいちようせきがはらたたか  
1600年(慶長5)の関ヶ原の戦い  
で、徳川家康率いる東軍が、石田三成・  
もうりてるもとひきせいじんしょうり  
毛利輝元率いる西軍に勝利しました。  
これにより家康の天下は決定的になり  
ましたが、いまだ豊臣秀頼は健在で、  
かれせんちゆうかんけい  
彼との緊張関係は増していました。家  
やすとうこくかんごんとうかいどう  
康は、東国への関門となる東海道の  
ぼうえいのうびへいやまもりかた  
防衛や濃尾平野の守りを固めること  
が非常に重要と考えました。清須城  
にかわるなごやじょう  
に代わる名古屋城は、その拠点として  
きずしるいえやすちからい  
築かれた城で、家康がとりわけ力を入  
れてつくらせた堅固な城でした。



なごやじょう  
名古屋城は  
なごやだいちせいほくたん  
名古屋台地の西北端に  
きず  
築られました

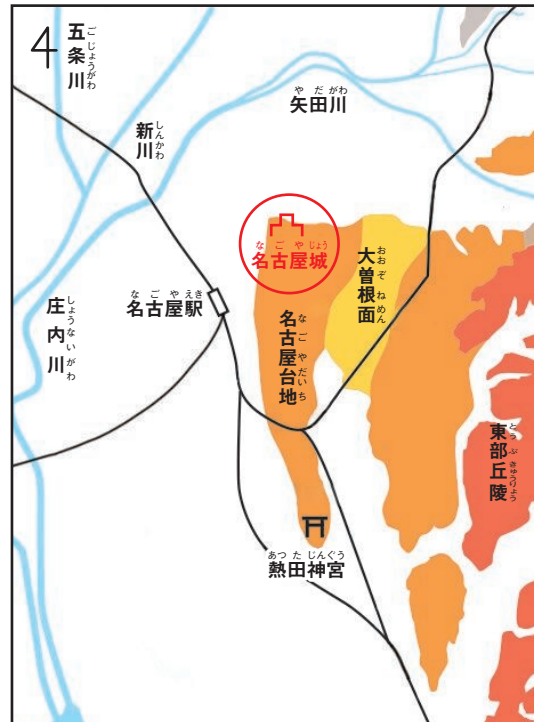
おわりのくにちゆうしんきよす  
このころの尾張国の中心は清須で  
した。しかし、清須は、五条川沿いの  
ていすいがい  
低地で、水害にあったり、水攻めにさ  
れたたりしやすい土地でした。

ひま  
日増しに豊臣方との関係がきびしく  
なる中、家康は、清須から名古屋台  
ちあたらしろ  
地に、新しい城をつくることにしました。

ねんけいちようしょうがつか  
1610年(慶長15)の正月9日から

ほんかくてきちくじょうこうじきよすごしきよす  
本格的に築城工事と清須越(清須の  
まちひっこ  
町ぐるみの引越)が始まりました。

なごやだいちなんぼくほそながの  
名古屋台地は、南北に細長く延び  
る台地で、その北側と西側は高さ10  
メートルほどの崖でした。しかも、崖下  
はしっちはひろがりがり、その北や西にはや  
は湿地が広がりがり、その北や西には矢  
だがわしょうないがわながとおはな  
田川・庄内川が流れ、さらに遠く離れ  
た外側には、きそがわながらがわ  
木曾川や長良川などの  
大きな川が流れていました。名古屋  
だいちなんぼくほそながの  
台地は、自然の地形に幾重にも守ら  
れたところでした。名古屋城は、このよ  
うな好条件にある台地の西北端の場  
しょ  
所につくられました。





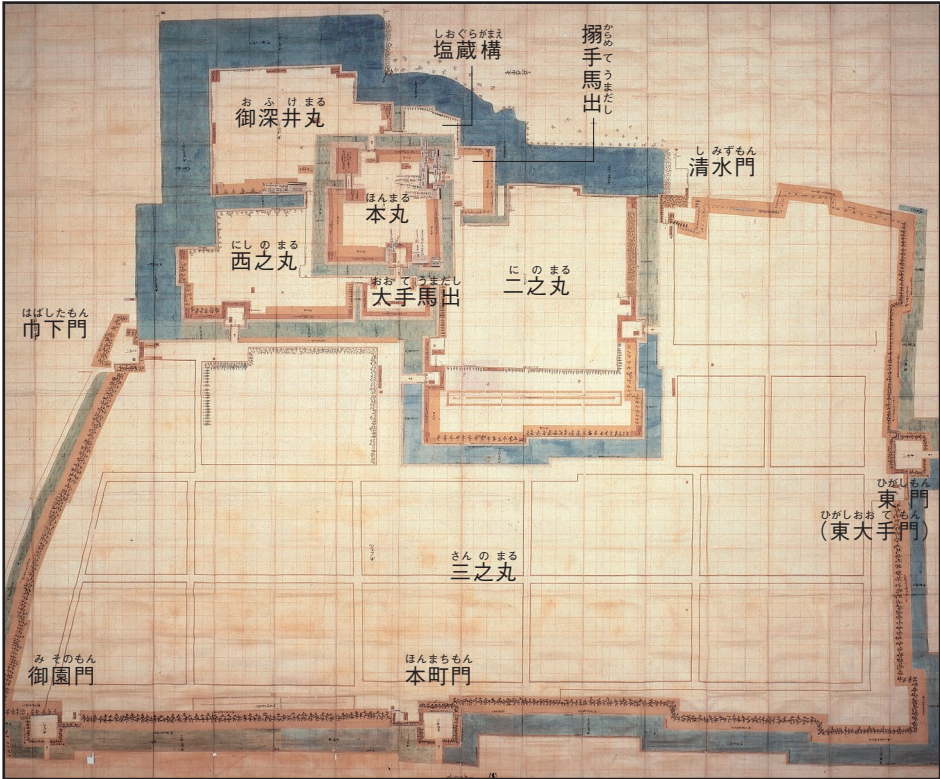
なごやじょうほんまる  
**名古屋城の本丸は、  
 にじゅうさんじゅうかこ  
 二重三重に囲まれ、  
 まも  
 守られていました**

なごやじょうなわばりたてものほりいしがき  
 名古屋城の縄張(建物や堀・石垣・  
 もんなどの配置)は、ほんまるかこ  
 門などの配置)は、本丸とそれを囲む7  
 つの区画から成り立っていました。

もつとじゅうようほんまるまわからぼりいし  
 最も重要な本丸は、周りを空堀と石  
 がきげんじゅうかこほんまる  
 垣で嚴重に囲みました。そして、本丸  
 ひがしにのまるにしにしのまるほくせい  
 の東に二之丸、西に西之丸、北西に  
 おふけまるほんまるみなみひがしでいぐち  
 御深井丸、本丸の南と東の出入り口

おおてうましからめてうましひろば  
 には大手馬出と搦手馬出という広い場  
 しよもうきたしおぐらがまえしおほかんば  
 所を設け、北に塩蔵構(塩の保管場  
 しよはいちにしにのまる  
 所)を配置しました。さらに、西之丸と  
 にのまるそとがわひろさんのまるとかこ  
 二之丸の外側を広い三之丸で取り囲  
 さんのまるいつもんじゅうしん  
 み、三之丸には五つの門と重臣たちの  
 やしきはいちまもかた  
 屋敷を配置して、守りを固めていました。

ほんまるおおくるわとかこ  
 本丸は、多くの曲輪で取り囲まれ、  
 そのうえ、それらの曲輪全体が水堀や  
 からぼりいしがきかこげんじゅうまも  
 空堀、石垣などで囲まれ、嚴重に守ら  
 れていました。



げんろくじゅうねん おしるえず なごやしほうさぶんこぞう  
 元禄拾年 御城絵図(名古屋市蓬左文庫蔵)

なごやじょう いしがき  
**名古屋城の石垣は**  
 にん だいまょう  
**20人の大名によって**  
 つくられました



ねん けいちよう しやうがつ か  
 1610年(慶長15)の正月14日に、  
 とくがわいえやす かとうきよまさ まえだ としみつ  
 徳川家康は、加藤清正・前田利光・  
 いけだてるまさ さいこく ほっこく だいまょう 20人  
 池田輝政ら西国や北国の大名20人  
 ほり いしがきこうじ ふしん めい  
 に、堀などの石垣工事(普請)を命じま  
 した。

かくだいまょう りやうち こくだかしゆうにゆう おう  
 各大名は、領地の石高(収入)に  
 こうじ ばしよ わ あ  
 じて工事場所が割り当てられました。  
 だいまょうどうし い く こま  
 しかも、大名同士が入り組んで細かく  
 わ ふ 振られたため、たが きそ あ  
 割り振られたため、互いに競い合っ  
 こうじ すす ほんまる にのまる しゆよう  
 て工事を進め、本丸や二之丸など主要  
 ばしよ いしがきこうじ どうねん がつまつ  
 な場所の石垣工事は、同年の9月末  
 にはほぼ完了したといひます。

しよだい ほんしゆ とくがわよしな  
**初代の藩主は徳川義直。**  
 こさんけ ひつとう  
**御三家筆頭の**  
 だいまょう け  
**大名家でした**



おわりはん おわりとくがわけ とくがわいえやす  
 尾張藩(尾張徳川家)は、徳川家康の  
 なんくとくがよしな お しよだい ほんしゆ だ  
 9男徳川義直を初代の藩主とし、16代  
 よしのり やく ねんかんつ  
 の義宜まで、約260年間続きました。

りやうち おわりいつこく みののくにぎ  
 領地は、尾張一国のほか美濃国(岐  
 ふげんなんぶ みかわのくに あいちけんとうぶ いち  
 阜県南部)・三河国(愛知県東部)の一  
 ぶ きそ ながの げんなんぶ  
 部、木曾(長野県南部)などで、61  
 まん 9500石の石高を得ていました。

おわりとくがわけ きいとくがわけ ひととくがわ  
 尾張徳川家・紀伊徳川家・水戸徳川  
 け こさんけ よ なか おわりとくがわけ  
 家を御三家と呼び、中でも尾張徳川家と  
 きいとくがわけ け しやうぐんけ あとつ  
 紀伊徳川家の2家は、将軍家に跡継ぎ  
 がないときには、その後継者を出せる特  
 べつ いえ  
 別な家でした。

